

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

| | | | | | |
|-----|----------|------|-------|----------|-------|
| 学校名 | 呉市立阿賀中学校 | 校長氏名 | 矢野 秀樹 | 生徒指導主事氏名 | 平岩 弘文 |
|-----|----------|------|-------|----------|-------|

取組事例名 阿賀中学校ソーラン ～異学年交流を通じた伝統の継承～

取組のねらい『キーワード：伝統の継承』

- 阿賀中学校区の小中一貫教育の取組として、「伝統の継承」をテーマに、様々な場面で異学年交流の場を設定する中で、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。
- ア 中学生は上級生の練習風景の見学から合同練習等を通して、阿賀中学校の伝統を継承していく心構えを学び、成長した自分の姿を意識させる。
- イ 1年生は上級生から学んだ事を生かして、中学生として成長した姿を小学校の児童や教職員に見せると共に、小学校6年生の指導を含め、阿賀中ソーランの演技と情熱、心構えを継承していく。

取組の具体的内容『キーワード：先輩から学ぶ』

1 上級生の練習風景を見学

阿賀中学校の生徒としてソーラン演舞への情熱を体感させた。

2 体育大会での演舞

1 学年：基本演舞である「阿賀中ソーラン」

2 年生：地元阿賀の伝説に創作を加えた「お漕ぎ船伝説」

3 年生：阿賀中独自の演舞「YAMATO魂」

総踊り：各学年の表彰後に実施（部活動終了前の15分間を使い、部活動の先輩が後輩の指導）

3 衣装について

阿賀漁協組合から寄贈された大漁旗や法被を全生徒が着用し踊っている。

4 その後の発表

ア 小学校の運動会での発表（中学校1年生有志が中学校の体育祭で発表した阿賀中ソーランの演技を発表）

イ アガデミア*文化発表会で小学生と共に発表（中学校1年生が小学生に演技指導）

ウ 中学校文化発表会及び地域公開での演技発表（小学校6年生が来校し見学）

*「アガデミア」阿賀地区の7つの教育機関と地元自治会とで組織する「阿賀学園地域教育連携協議会」の愛称

取組の課題・創意工夫『キーワード：異学年との交流』

ア 演舞指導は伝統芸能部の生徒を中心とするが、ボランティアや希望者を募ることで多くの生徒が小学生の指導（演舞だけでなく、音楽係など）に関わることができるようにしている。

イ いろいろな活動場面で異学年交流ができるように、場の設定について意識して計画を立てた。

ウ 課題として、小学校との時間調整（授業終了から演技指導までの時間調整）や教職員の引率等の調整と共に、参加児童数と指導に参加する生徒の人数確保があげられる。

取組の成果（効果）『キーワード：達成感』

ア 中学生は先輩として、切れのある演技を見せることで小学生に「自分もかっこよく踊れるようになりたい」という意識の高まりをもたせた。また、丁寧な演技指導により、あこがれの存在として慕われ、自己有用感が高まった。

イ アガデミア文化発表会では地域の方も多く来られ、緊張感の中での発表となったが、実際の衣装や道具を使い演技することで、小学生も達成感を味わわせることができた。

ウ 見本となる上級生の活動を間近で感じることができ、自分たちの課題克服への意識が高まり、どの学年も一生懸命に発表することができた。

今後の展開『キーワード：先を見据えて』

ア 中学生は3学期後半に、来年度の体育祭発表に向けて、2年生の演技「お漕ぎ船伝説」、3年生の演技「YAMATO魂」の練習に取り組む。より伝統の継承者としての意識を持って取り組ませたい。

イ 新入生（現6年生）は、今回、アガデミア発表会に出演した児童を中心として、体育大会のクラス発表に向け、4月1日の入学受付（入学通知書を提出したり、入学式の心得や作法の練習等を行った）後、ソーラン講習会の案内をし、入学式までの短い時間ではあるが、ソーラン練習の核となる生徒を育成し、学年始めのクラスづくりに結びつけている。

他校へのアドバイス『キーワード：施設の活用』

ア 本校は小学校と隣接しているため、「伝統の継承」というキーワードの核となるソーランだけでなく、行事の中で、比較的小中の交流の場を設定しやすい。

イ 年度当初の学級集団づくりとして生かすことができる。

ウ 各学年3クラスという規模であれば、体育館などの施設をより有効に活用できると思います。